

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

1 (小説) 採点基準 (合計 50 点)

問一 15 点

(模範解答例)

A 4 点

B 4 点

これまで老夫人が多少とも煩わしいような、あるいは前日と異なった応答をしたために X 氏の判断を悩ませたという苦い経験を経たうえで、

B 7 点

時間に几帳面な X 氏の安心と判定を早めようとしたから。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C に関して部分採点を行う (A・B・C それぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 老夫人が多少とも煩わしいような、あるいは前日と異なった応答をした【原因】 3 点

B X 氏の判断を悩ませたという苦い経験を経た【結果】 4 点

C 「AとBを条件に」時間に几帳面な (生活の軌道を外すことを好まない) X 氏の安心と判定を早めようとしたこと 7 点

問二 各3点

X || ハ

Y || イ

問三 4 点

二

問四 10 点

(模範解答例)

A 4 点

X 氏が帰宅した自分の息子にまで丁寧な礼を返し、

B 4 点

しかもそうした X 氏の反応を息子は何事もなかったように受け流すという

C 2 点

異様な光景を目にしたから。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C に関して部分採点を行う (A・B・C はそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A X 氏が帰宅した自分の息子にまで丁寧な礼を返したこと 4 点

B X 氏の反応を息子は何事もなかったように受け流したこと 4 点

C A、B は異様な光景に感じられたこと

問五 4 点

口

問六 5 点

イ

問七 6 点

イ

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 付与 (附与 も可)
- 2 干涉
- 3 潜
- 4 隔絶

※解答通り

問二 各4点 (計8点)

- 一
- 二
- 三
- 四

※解答通り

問三 6点 (模範解答例)

A ○3点

非日常的な空間では、集中して芸術作品に接する状況が成り立つが、

B ○3点

日常空間にいる場合は、日常的な因果関係から抜け出すことが十分できないから。

(68字)

※A・Bに関して部分採点

A 「非日常的な空間では、集中して芸術作品に接する状況が成り立つが」(3点)

※第1・2段落の「劇場」を、「非日常的空間」と一般化し、その場合、芸術に集中できることを説明する。

△「劇場では集中して作品に接することができるが」は、「劇場」の部分が具体例のままであるので▲1点減点で△2点。

△「非日常的空間では作品と真正面から向き合えるが」は、「作品に真正面から向き合える」が一般化されていないので▲1点減点で△2点。

△「劇場では作品に真正面から向き合えるが」は、「劇場」の部分が具体例のままであり、「作品に真正面から向き合える」も一般化されていないので▲2点減点で△1点。

△「劇場では日常から身を引き離すが」は、「劇場」の部分が具体例のままであり、「集中すること」の説明が不十分であるので▲2点減点で△1点。

B 「日常空間にいる場合は、日常的な因果関係から抜け出すことが十分できないから」(3点)

※第1段落の「テレビ中継」を、「日常空間」と一般化し、その場合、日常の因果関係の中から抜け出せないことを説明する。

△「自宅でテレビ中継を見る時は日常的因果関係から抜け出せないから。」は、「テレビ中継」の部分が具体例のままであるので▲1点減点で△2点。

△「自宅でテレビ中継を見る時は日常的因果関係から抜け出せず、十分に作品に向き合えないから。」は、「テレビ中継」という部分が具体例のままであり、「作品に向き合えない」も一般化されていないので▲2点減点で△1点。

問四 4点

二

※解答通り

A ○2点

美的価値を見出し、

B ○2点

日常を超えた輝かしいものとして見る。

(27字)

※A・Bに関して部分採点

A 「美的価値を見出し」(2点)

※第7段落の「死の美学」に関連して、日常を離れた際、そこに美的価値を見出すことの説明。

○「美しい樹木として見る。」も可。ただし、この説明で終わっているものは、Bの観点はないので▲2点減点で△2点。

B 「日常を超えた輝かしいものとして見る」(1点)

※第8段落の「東山魁夷」の具体例から、「実用的連関を超えた」「輝き」を感じることの説明。

△「実用的世界から超越したものとして見る。」は、「日常を超えた」の言い換えとして認められるのでよいが、「輝き」について触れていないので▲1点減点で△1点。

問六 12点 (模範解答例)

A ○3点

空想や幻想と結びついた形で美が表現されるのは、

B ○3点

空想や幻想が、現実との因果連関と離れていたり、

C ○3点

時に現実ではありえない因果連関を持ったりするという点で、

D ○3点

美を具現化しやすい領域のものであるから。

(94字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「空想や幻想と結びついた形で美が表現されるのは」(3点)

※傍線部で、美を表わす時には「空想や夢」と結びつけた表現が使われることの指摘。

B 「空想や幻想が現実との因果連関と離れていたり」(3点)

※傍線部直後の「現実との乖離」を説明。

○「幻想や夢が現実と乖離していたり」も可。

C 「時に現実ではありえない因果連関を持ったりするという点で」(3点)

※最終段落2行目の「現実では生じない」こともあるという説明。

△「現実世界にはありえないような存在者が登場したりするという点で」は、「現実世界にはありえないような存在者が登場したりする」の部分が具体例のままであるので▲1点減点で△2点。

D 「美を具現化しやすい領域のものであるから」(3点)

※傍線部直後の部分の端的な理由の説明。

問七 各4点(計8点)

口・ハ

※解答通り(順不同)

第3回九月難関大記述模擬採点基準 (古文)

問一 (4点×3)

問一・A・模範解答例

a (2点) b (2点)
かえってつらいようなので (4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

a 「かえって」 …… 2点。「かえって」と訳してあること。「むしろ」でも可。

b 「つらいようなので」 …… 2点。「つらい」の意+推量(「だろう・ようだ」の意+原因理由の条件がそろっていること)。「つらいので」と、推量の意味がないので、1点のマイナス。「つらい」のニュアンスの感じられないものは加点無し。「つらいらしくて」も可。

問一・B・模範解答例

a (2点) b (2点)
そのまま出て行った (4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

a 「そのまま」 …… 3点。「そのまま」の解釈。「すぐに」はダメ。

b 「出て行った」 …… 1点。「出る・出発する・去る」+完了の意。「出て行ったの」「出て行ったその様子」のように「の」「姿」「様子」などの体言を補_足してあってもよい。「父(孝標)が任地へ立った様子」のような書き方でも可。

問一・D・模範解答例

a (2点) b (1点) c (1点)
無事に父に会わせてください (4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。

a 「無事に」……………2点。「何事もなく」でも可。

b 「父に」……………1点。「父に」という人物名の明示。「父の孝標に」でも可。「孝標に」だけでは×とする。

c 「会わせてください」…1点。「会わせなさってください」でも可。使役の意味の感じられないものはダメ。「対面・再会」でも可。

問二 1 ㊦ 2 ㊦ 3 ㊦ 4 ㊦ 5 ㊦ (2点×5)

問三 (6点)

問三・模範解答例

a (2点)

自分の思い通りにならず、遠国に赴任させられたということ。

b (3点)

c (1点)

(二八字) (6点)。

【各部の採点】 6点満点。加ポイント3箇所。

a 「自分の思い通りにならず」…2点。思い通りにならないという内容。「不本意なことに」でも可。

b 「遠国に赴任させられた」…3点。前書きの内容を利用する設問であることに留意して採点する。「任国が京の近くにならなかった」のよう
な言い方でもよし。

c 「〜と〜と」と「…」…1点。文末表現。ここだけでは零点。

問四 (6点)

問四・模範解答例 筆者の、すぐに返歌をすることができないほどに、父との別れを
つらく思う。 (二七字) (6点)

a (1点)	b (3点)	c (2点)
--------	--------	--------

【各部の採点】 6点満点。加点ポイント3箇所。

a 「筆者の」心情」……………1点 完答。この箇所だけ正解なものは
零点。

b 「すぐに返歌をすることができないほどに」…3点 父への歌の返しがすぐにできないと
いう内容。「父への返歌ができない」
のように「すぐに」という表現のない
ものは1点の減点。

c 「父との別れを」つらく思う」……………2点。父と別れたくないという思いでも可。
父との別れのつらさ、悲しさのよう
なっていること。つらさ、悲しさだけ
では加点しない。「父との別離ゆえ途
方に暮れる」は良し。

問五 イ (4点)

問六 (6点)

問六・模範解答例 父が「子しのびの森」という地名を、娘のことを恋しく思う心境によ
そえている。(三七字) (6点)

a (1点)	b (2点)	c (3点)
--------	--------	--------

【各部の採点】 6点満点。加点ポイント3箇所。

a 「父がくによそえている」……………1点。このカタチで説明されているか。この箇所だ
けでは加点無し。

b 「子しのびの森」という地名を「…2点。「子しのびの森」という地名」のような説明。「地
名」のないものは1点の減点とする。

c 「娘のことを恋しく思う心境」……………3点。娘を恋しく思い出す自らの心という内容

問七 八 (4点)

問八 蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記・讃岐典侍日記 の中から二作品。(1点×2)

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 【解答通り】各2点 2×4=8点

模範解答

a 〓すでに b 〓と c 〓いえども d 〓ああ

採点基準

- ・ a 「すで」は×。
- ・ c 「いへども」は× 【現代仮名遣いで】。
「いえど」「いえ」は×。

問二 各3点 9点

模範解答

- 1 優れている点
- 2 足りないところは
- 3 準備を十分にして機会を待つ

採点基準

- ・ 1 「優れている」「まさっている」。「点」は「こと」も可。
「越える」「超越」などは不可。
- ・ 2 「十分でない・充分でない・不足している」など可。
「は」はなくとも可。
- ・ 3 「準備・用意を十分にする」のみは1点。
「よい機会を待つ」のみは1点。
「時が満ちている・時を待つ」のみは0点。

問三 5点

解答

二

問四 6点

模範解答

十分な時間をかけて 修養を積み、 力をつけてから 世に出る

- a 2点
- b 1点
- c 1点
- d 2点

点。

採点基準

・ d 「世に出る」は「出世する」「仕える」も可。

問五 10点

模範解答

自分では まだ学問が十分でないと考えている のに、

- a 1点
- b 3点
- c 1点

- d 2点
- e 1点
- f 2点

世間の人々からは むやみに 推奨されてしまう から。

採点基準

三〇字に満たないものは〇点。

文末処理：「ので」「から」「ため」などがないもの…2点減点

本文にない誤った内容を含む箇所…減点2点

b 「学問」「勉強」などがない場合…減点1点

「学力」はズレ…減点1点

c 「のに」「が」「けれど」など逆接表現。

d 「世間の人々」「周りの人」「大衆」など。

e 「むやみに」「やたらと」「くばかり」など。

f 「推奨」「推薦」「登用」など。

d・fでは、「(人々)から」される「(人々)が」する」とならず、

「(人々)に」する「など主体に誤りがある場合…減点2点

問六 9点

模範答案

a 2点 b 1点 c 2点

学問に努め 広く厚く 修養を積んでから、

d 2点 e 2点

少しづつ 能力を発揮せよ ということ。

採点基準

- a 「努め」は「努力」「励み」なども可。
- b 「広く」「厚く」はどちらかあれば可。
- c 「修養」にあたる語句があれば可。
- d 「薄く」のままは不可。
- e 「力を出す」など可。

問七 3点

解答 〓 韓愈(柳宗元・欧陽脩・王安石・蘇洵・蘇轍・曾鞏)

採点基準 漢字の誤字に注意してください。誤字は減点1点。

- ・「欧陽脩」は「歐」「修」も可。
- ・「曾鞏」は「曾」も可。

以上